佳作

「進み続ける私の挑戦」

山形県山形市立第六中学校
３年　上野　伶奈

私の将来の夢は、日本の伝統文化や、食文化の魅力を海外に発信し、それを世界各国の人々に広めることです。そう考えるようになったきっかけは、母の実家の東京に毎年帰省するたびに、外国人観光客が多いこと、そして外国人観光客は日本製の商品、また日本食や日本の伝統文化に触れることを目的にしていると知ったことです。テレビや父母のＳＮＳ関連の話題に目を向けてみると、日本を訪れる外国人は年々増え続けていることにも驚きました。また、私の叔母は 18 年間ニューヨークの美術館で仕事をしていました。その影響を受けて私自身も英語を学びたいと考えるようになりました。英会話スクールで外国人の先生に指導を受けたことも理由の一つです。

私は、普段何気なく生活している日本の国の文化が海外から注目されることに嬉しさを感じるとともに、この日本文化を将来私自身の力で世界各国に広げていくことはできないかという点にとても興味を持ちました。日本人だからこそ伝えられる日本文化を、より一層広く深く伝えていきたいと強く感じるようになりました。

日本独自の文化の魅力を海外のより多くの国々の人に伝えていくには、まず語学力が必要であり、その中でも世界で多く使用されている英語を学びたいと考えるようになりました。また、より多くの国々の人と会話する際のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力も必要であると考えました。そうした流れの中から、次第に私は実際に外国人の家族と生活を共にすることで、日本で経験することのできないコミュニケーションを図ることができるのではないかと考えるようになり、私は思い切って山形市の姉妹都市であるスワンヒル地方市との短期交換留学に応募することを決心しました。この短期交換留学は、私が通う中学校からの案内プリントで知りました。東京の母の実家へ帰省をするたびに肌で感じた外国人の多さと、外国人から見た日本の魅力は大きいという事実から、私も日本の文化を発信しながら自分の力で国際交流を図ることができるかを試す良いチャンスだと思い、応募しました。面接ではなぜ交換留学を応募したかの率直な想いを伝え参加メンバーに入ることができました。

実際に現地へ行ってみると、スワンヒルの人々は皆温かく、目が合うとすぐにニッコリと微笑みかえて、話しかけてくれました。ホストファミリーは初日から私を家族のように受け入れてくれて言葉の壁を感じないくらい、いつも気

にかけてくれました。そんな温かさに包まれて過ごした日々はあっという間に過ぎていきました。私のホストファミリーは自国の文化である先住民アボリジニの火おこしの体験や楽器の演奏を見せてくれました。また、夜は焚き火をしながら家族団欒の時間を過ごしたり、南半球でしか見ることができない南十字星を見ることができました。日本の夜空とは異なり空一面に広がる美しい星の数に圧倒され、瞼を閉じると今でもあの満天の星空が広がるようです。オーストラリアでの日々は忘れられない私の宝物になりました。

私は、たくさんの貴重な経験を通して留学期間を思いきり楽しむことができました。ですが、ホストファミリーとの過ごす時間や会話が増えていくうちに、自分自身の語学力の足りなさも実感してきました。自分から話すことができても、相手が話してくれた内容を理解することにとても時間がかかり、スムーズに会話が続かないことのもどかしさが常にありました。お互いに本当に理解し合っているのかが曖昧なままその場だけが過ぎていき、一日一日に心残りがありました。また、翻訳機に頼ってしまってのやりとりもあったことで、リアルタイムでの直感や本当に伝えたかった気持ちが半減してしまい、「もっとしゃべれたらお互いに気持ち良く会話が続いたのに」と思った場面が何度もあり、相手に伝わらないもどかしさを痛感し、悔いが残りました。私は、この交換留学を経験できたからこそ、より英語の語学力やコミュニケーション能力を磨くこと、そして直感での想いや気持ちをすぐに相手に伝えられるスキルを身につけることが大切だと改めて感じることができました。初めての留学で得た自分の中の新しい感情を忘れることなく次に生かしていくためにも、ホストフレンドとのつながりを大切にして、連絡を取り続けていきたいと思います。将来の夢へ今から一歩でも近づけるために、まずは身の回りのことを知ることから始め、身近な山形の文化を絶えず発信していきたいです。

今後私は、今回の留学で感じた悔しさを晴らすためにも、さまざまな国を訪れたいと考えています。留学を通して深く文化を学び、将来の夢へ近づけるように頑張っていきたいです。これからも私の挑戦は続いていきます。